

アルパカファーム の 経営・労務

事件簿

監修

矢萩大輔

(有)人事・労務 代表取締役

無料農業支援ポータルサイト「われらまちの農縁団」
<http://social-jinji-roumu.com/farming/>

第8話

人手不足解消に妙案は

今回のキャスト

社長 藤田 匠

社員 西園寺 千代

社労士 伝法院 千里

春になり、仕事量も増えてきたアルパカファーム。少ない人手のなか、社員が早くも根を上げはじめてしまった。打つ手はあるのか。

千代 社長っ、いまから猫の手も借りた状況では、この先の長い農繁期を耐え抜く自信がありません。

藤田 おいおい、今年は例年以上にヤル気をなくすのが早いなあ。まあ確かに、いまのままでは厳しいね。そこでさ、ちよつと時期が早いんだけど、新しい人を雇おうかと思って。実は妻のママ友のなかに、子供が小学校に上がって時間が空いたから働きたいって人が何人かいるんだよね。

千代 そうなんですか！ それはありがたいですね。でも、農業は初めてですよ。ちゃんと仕事になるんですか。それに、いつもより早いこの時期に雇い始めれば、人件費もかさみますし……。

藤田 まあ、みんな最初は初心者なんだし、今後のことも考えれば、願ったり叶ったりなんじゃないか。仕事だって、初めは限られた勤務時間内でできることを考えて、慣れてきたら次のちよつと高度なことをお願いすればいいじゃないか。

伝法院 そう、そのとおり！ 藤田さん、もう立派な経営者ですね。

藤田 わあっ、伝法院先生！ 今回はいきなり登場ですね。なんだか、先生に褒められると恥ずかしい。でも、先生、なんで私が立派な経営者なんでしょう？

伝法院 いまの世の中、働き方が非常に重要なんです。たとえば、今回のママ友さんみたいに、出産・子育てで一時的に働けない人もいるし、介護で働けない人もいます。ようやく時間ができて社会復帰しようとしても、以前と同じように正社員として働くことは難しい。そういう方がたくさんいるんですよ。企業がまず取り組むべき課題は、そういった方々が短時間勤務の正社員として働けることだと思っています。

藤田 そうなんですか、でもうちは今年から加工も始めようと思ってい

ますので、短い時間でも働いてくれるのであれば単純にありがたいです。農作業も、他の仕事に比べて分割しやすいので、ちよつといいなあって。ただ、どうして正社員なんですか？ いままでのパートさんとは何が違うんですか？

短時間勤務の正社員がもたらすメリット

伝法院 たとえば、これまでのように賃金水準の低いパートさんとして雇ったら、それなりの仕事はしてくれませんが、責任は生じないので、主体的に仕事にかかわろうとしません。しかし、短時間勤務の正社員として雇うことで、本人も周りも責任感を共有し、積極的な姿勢で仕事にかかわります。それに、今回のママ友さんのような短時間勤務の正社員がいてくれると、組織としても、良い効果が現れるんですよ。時間が限られているのでコミュニケーションの方法が変わり、お互いができるこ

今回の執筆者：むらた さゆり 村田 小百合
社会保険労務士
(有)人事・労務
パートナーコンサルタント



前職は総合建設会社総務部に20年間勤務。うち9年間役員として経営に携わるなか、労使トラブルや経営の危機に直面し、企業存続の根幹はマンパワーだと痛感する。2011年に地元埼玉県春日部市で社会保険労務士事務所を開業。自然と地元での活動が増え、春日部の元気を考えるようになる。「地域密着」プラス「頑張る社長を応援する」をモットーとして活動している。

「女性視点」の農業イノベーション

●家族協定の勧め

農林水産省の農業女子プロジェクトに参画した丸山製作所は、L-プロジェクト（Lはレディ）を掲げ、女性目線で刈払機「かるーの」を開発。軽量化や刃の角度調整などを通して女性の道具や機械に対する悩みを解消し、昨年11月に発売しました。農業に携わる女性に注目した商品の一例です。

これまで、女性の就農のきっかけといえば、「自営農業を継ぐ」「嫁ぎ先が農家」など、「家族」をキーワードとしたものでした。

たとえば茨城県坂東市のWさんは嫁ぎ先が農家。50haの田んぼと、畑ではネギとレタスを主に栽培しています。専業農家でご主人、長男、次男と一緒に朝から夕方まで汗を流す毎日。小さな子供を抱えていたころは、危険な機械もそんなになかったこともあり、ネギ畑に歩行器持参で来たり、子供を畑で遊ばせながらの作業もできたといいます。

家事・育児・農作業を、その時その時のスタイルに合わせやってきたWさん。「定年がないのでいつまでも働けるわ」とおっしゃっていたのが印象的でした。

最近では、農家に嫁いでも農業をすることは限らない傾向もあるようです。働くということに着目すれば、家族でも会社と一緒に考え、労働時間、給与、研修などの「家族協定」締結をお勧めします。それぞれのワークライフバランスを大切に家族農業経営。旦那様との役割分担、経営参画に関する取り決め、家庭との両立を考慮して労働時間や休日も協定しましょう。

●女性が働きたいと思える職場

栃木県大田原市にある前田牧場は、ホルスタイン牛を育てています。その牛糞を堆肥にして、コメやアスパラガスを中心に野菜を作り、そこで採れた野菜とホルスタインの肉を使った「ファーマーズカフェ」を運営しています。このカフェは、前田智恵子専務の「大田原にも、若

い女性が楽しくおしゃべりできるオシャレなカフェが欲しい」という、女性の消費者としての視点からデザインされ、お洒落で少し都会の雰囲気のある空間となりました。

しかも、地域の女性が「働きたい!」と思える場になっており、雇用創出という面でも地域に大きく貢献しています。また、ホルスタインの肉を販売するミートショップをオープンしたり、農家民泊・農業体験事業を展開したりと、地域循環型農業を実践し、地域の外からもお客さんが訪れるようになっていきます。これらの事業にも、「女性の視点」を最大限に活かし、女性が参加しやすい工夫がちりばめられています。

●販促でも発揮される女性の力

農家が抱える問題として、販促活動があります。農作物の生産・収穫のプロであっても、そこから消費者に選んでもらうまでのマーケティング、購買活動に関しては弱い。

実際に、女性ならではの視点で農作物の加工・販売などにかかわっている農業女子が5割もいるというデータがあります。6次産業化に視点を合わせ、地域の食材を活かした食品加工や、SNSを利用した販促、ラッピングの工夫、マーケティングに女性の力が発揮されています。そのような活動から地域の特産品が生まれ、地域活性化につながっています。

現在のところ、食品加工等の年間売上金額は300万円未満の農家が半数以上を占めるなど、まだまだ小規模ですが、農業女子の勢いはもっと加速するはず。スーパーではあまり売っていないニッチな野菜を手がけてレストランなどと取引する、農家カフェの経営を手がけるなど、「だから農業は儲からない」といった悪循環を農業女子が解決してくれるかもしれません。

農業女子たちがこれからの日本の農業界にイノベーションを起こしてくれるのではないのでしょうか。

と、できないことを理解しあいサポートしあう文化ができたりと、良い方向の変化が期待できます。それに、加工品を作るのであれば、びったりじゃないですか。きっと大活躍してくれると思いますよ。

藤田 かわいいデザインを考えられるとか、そういうことですか？

千代 私もやってみたい!

伝法院 はい、それも半分正解です。ただ、大事なのは、より消費者の目線に立てる、ということ。いまはもう、ただ安ければ売れる、かわいければ売れるという単純な消費傾向の世の中ではないので、消費者の立場に立って、どういう商品だったら買いたいのか、それを買ったらどういう行動をするのか、具体的に考えられることが重要です。その視点を生産者側が持っているというの

は、とても大きな強みですね。

藤田 そういうことなんですね。そこまで深くは考えていませんでした。やはり、ママ友に短時間の正社員として来てもらうべきですね! さっそく面接をして、いつ、どれくらいの時間働けるのかを聞いてみたいと思います。